済生かわぐち

「地域のみなさまと医療のかけはし」　済生会川口総合病院　広報誌

特集

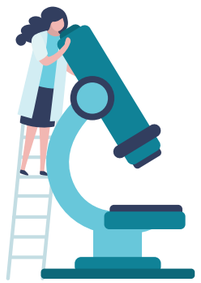
がんを見極める

病気を見つける病理診断科のお仕事とは？

vol.
261

がんを見極める

病気を見つける病理診断科のお仕事とは？



みなさまは「病理診断科」をご存知でしょうか？

外来を設けている病院はほとんどなく、そもそも耳にしたことがない方も多いかもしれません。というのも、病理診断科は２００８年に厚生労働省から認定されたもっとも新しい診療科の一つであり、十数年前までは、３００床以上の中～大規模病院医療機関の約８割が自院のホームページ上にも記載していませんでした。そして科を担う病理専門医も全医師数の約０・８％の約２８００名（常勤医は約１３００名）にとどまります。

幸いにも、当院は人材に恵まれ、常勤病理医３名と非常勤病理医２名と臨床検査技師９名で運営しています。

では病理医の仕事とは具体的にどのようなものでしょうか？仕事内容を４つにわけてご説明します。

病理医の仕事内容

①病理組織診断

臨床科の先生が採取した生検検体は、固定、脱水・包埋の処理がなされ、「ホルマリン固定パラフィン包埋ブロック」として仕上がります。その後、薄切、染色の工程を経てガラス標本として病理医の手元に届きます（この過程で最低３日はかかります）。ガラス標本を顕微鏡で観察し、がんかそうではないかの診断を行い「病理診断報告書」として臨床医にフィードバックします。

具体的には、「内視鏡検査で採取された大腸生検検体」「膀胱鏡下で切除された膀胱腫瘍検体」「コルポスコピー下で採取された子宮頸部組織」などなど…

これらはすべて上記の過程を経て標本化され、私たち病理医の目で診断されています。生検標本は小さいもので１㎜未満であり、十数㎛単位での判断が求められます。一方、手術で摘出された大きい検体はホルマリンに１～２日固定され、病理医が「切り出し」を行ったのち、上述の工程を経て標本化されます。切り出しはとても重要な作業であり、多くの病理医は各臓器のがん取り扱い規約に基づいて、メスやハサミを用いてがんの程度や広がりを観察し、適切な部位を切り出します。

②術中迅速診断

「ゲフリール」「フローズン」などの「凍った」という意味の単語で呼称されることが多い検査です。検体を液体窒素で凍らせて短時間で標本化します。文字通り「手術中」に提出されるため、数十分での標本作成と組織学的判断が求められます。

具体的には「胃がん切除断端の判定」「大腸がんのリンパ節や乳がんのセンチネルリンパ節の転移の有無」「肺腫瘍のがんか否かの判定」などがあげられます。

この診断結果に基づいて手術の範囲が決まるため、病理医の腕の見せ所ですが、プレッシャーとの闘いでもあります。

③細胞診

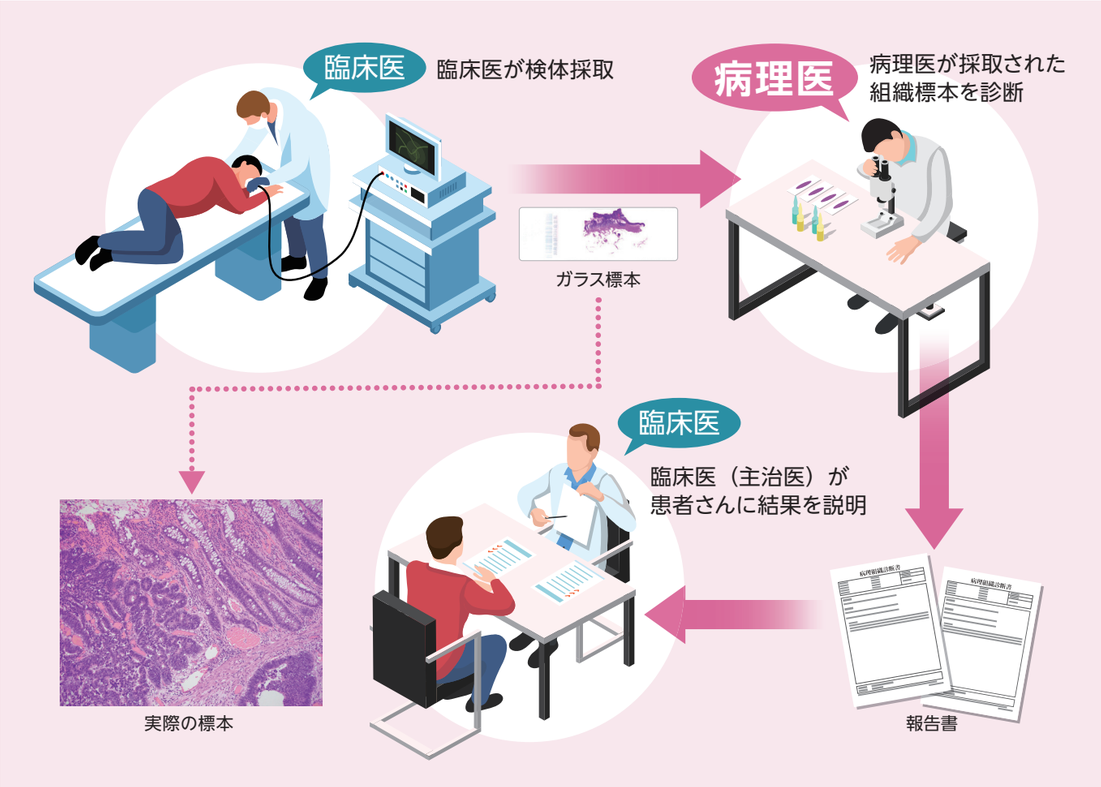
子宮、尿、痰、胆汁や体腔液（胸水や腹水）などの材料から標本を作成し、顕微鏡下でがん細胞の有無を調べます。組織診断よりも侵襲性が低いことが多く、病気やその兆候を早めに見つけるためのスクリーニングとして用いられることが多い検査です。細胞形態の観察に優れた検査であり、臨床細胞学会認定の細胞検査士と細胞診専門医を取得した病理医が所見を擦り合わせて判定します。

細胞診カンファレンスの様子

④病理解剖

ご遺族の承諾の元、院内で亡くなられた患者さまのご遺体を解剖させていただくのが病理解剖です。剖検とも呼ばれます。死因解明を目的としているだけでなく、「臨床診断の妥当性」「治療効果の判定」「合併症や偶発的な病気の発見」など、剖検でのみ得られる情報が多くあります。肉眼所見はその場で臨床医にお伝えしますが、顕微鏡所見を含めた最終診断は時間を要します。

また当院ではほぼ全例に、臨床病理カンファランス（clinic-pathological conference: CPC）を開催しており、研修医と臨床医を交えた検討会を行います。全身の病態を理解し、死因究明に双方の意見をかわす場は有意義であると同時に、病院ないしは医療の質の担保と教育に非常に重要です。



病理診断科の役割

病理診断科は臨床側との連携も必要不可欠です。ひと昔前までは「患者情報なしで診断すべし説」を唱える病理医もいましたが、電子カルテが普及し、病理医自らが臨床情報を収集できる現在では、臨床情報の把握はほぼ必須となっています。基礎疾患、既往歴や治療歴を把握するのはもちろんのこと、検査データや画像所見を確認し、場合によっては直接臨床医や画像診断医に意見を求める場合もあります。これらの情報と組織所見を照らしあわせて初めて、求められている的確な病理診断情報を提供することが可能になるのです。

また、がんゲノム医療（遺伝子情報に基づくがんの個別化治療）でも、病理診断科の重要性が認知されています。２０１９年からは、がんの組織を使って多数の遺伝子を同時に調べる遺伝子パネル検査や、特定の薬が効果を発揮するかどうかを調べるコンパニオン診断薬が保険導入され、免疫チェックポイント阻害薬を含めた分子標的薬の適応拡大が進んできました。病理医はこれらの検査に患者さまから採取した検体が耐えうるかどうか（量や質）を判定したり、ときには免疫染色標本を用いて、患者さまに効く治療薬の選定のアドバイスを行っています。

さいごに

ご来院の際、手術室の隣にひっそりとたたずむ病理診断科では、みなさまのお体の一部をお預かりし、適切な治療に結び付くよう日々奮闘している人々がいることを、お気に留めていただければ幸いです。

病理診断科
主任部長
朝比奈（あさひな） 未紀（みき）

■資格・認定
・日本病理学会病理専門医
・分子病理専門医・評議員
・日本臨床細胞学会細胞診専門医
・厚生労働省　死体解剖資格認定

新任医師のご紹介

外科
矢口 まいか

外科
二木 修平

外科
小林 清洋

外科
寺澤 無我

外科
藤原 大介

整形外科
石川 裕太郎

産婦人科
鈴木 七海

産婦人科
伴 操

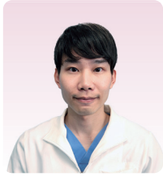
脳神経外科
荻野 樹

脳神経外科
眞上 俊亮

循環器内科
藤井 安澄

循環器内科
稲垣 裕介

整形外科
杉本 清良


整形外科
坂東 燎

整形外科
高橋 広成

内科
大久保 竣介

麻酔科
黒田 唯

麻酔科
鈴木 邦夫

腎臓内科
新坂 真広

腎臓内科
酒井 敬史

放射線科
相澤 拓也

小児科
黄 弈達

皮膚科
田中 瀬奈

内科
北川 達也

内科
太田 香保

リハビリテーション科
北川 諒

泌尿器科
野田 和

呼吸器内科
四元 佳奈子

病理診断科
木村 寛子

血管外科
福原 菜摘

神経内科
今井 健

フードドライブについて

当院では、生活困窮者支援（なでしこプラン）の一環としてフードドライブ活動を行っています。フードドライブとは、缶詰や乾麺、保存食など家庭で利用しない食品を個人が持ち寄り、地域の福祉施設・団体などに寄贈する活動です。

本活動は、SDGs（持続可能な開発目標）における「1.貧困をなくそう」、「2.飢餓をゼロに」、「3.すべての人に健康と福祉を」、「17.パートナーシップで目標を達成しよう」と関連しています。

当院での活動は今年度で4回目となります。2025年 1月に当院の職員や病院ボランティアへ声掛けを行い、食料品を中心に文房具、乳児用オムツやミルクなど段ボール 4 箱分が集まりました。

寄贈品は、川口市内で子ども食堂や学習支援などの取り組みを行っているNPO法人「こどもの居場所づくり inかわぐち」さんへお届けしました。お届けの際、法人代表の添田様からは「経済的な理由でお菓子のような嗜好品を買えない家庭もあり、届けると真っ先にお菓子を口にするこどもも多いです。最近は全般に食料品のご寄付が減っているため、今回のようなご寄付は大変ありがたいです。文房具は新入学する子のいる家庭へセットにして配布しています」といったお話がありました。

近年は急激な物価高もあり、困窮世帯の経済状況はますます悪化しています。社会保障制度の見直しなど根本的な対策が急務ですが、目下困窮している世帯に対しては、こうした助け合いの活動が生活をつなぎとめ、また社会とのつながりを維持する役割を担っているように感じます。

今後もこうした生活困窮者支援を通じて、SDGsの目標達成や「誰ひとり取り残さない」まちづくりを目指していきます。

お問い合わせ　済生会川口総合病院　医療福祉事業課　TEL:048-253-8927

医療連携登録医のご紹介

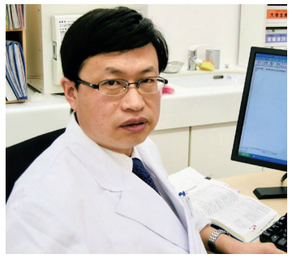
あなたの町のホームドクター

連携医療機関検索サービス
スマホで検索できます ▶

栄クリニック

内科　整形外科　皮膚科

栄クリニックは、内科・整形外科・皮膚科を診療している漢方医・西洋医学の総合クリニックです。漢方医学は、西洋医学で改善しない症状に劇的な効果を示すことが少なくありません。一人ひとりの体質に合った診療と処方をし、西洋医学と漢方医学の総合診療で患者様のお悩みの解消に努力いたします。
お気軽にご相談にお越しください。



院長 趙（ちょう） 雲鵬（うんほう） 先生

	月	火	水	木	金	土	日
午前 09:00～12:30	ー	○	○	○	○	ー	ー
午後 15:00～ 18:30	ー	○	○	○	○	ー	△

○休診日：月曜日　土曜日　祝日
※日曜日　14:00~18:00

住 所：埼玉県川口市栄町3-8-2
ヤナトリビル4F
TEL：048-287-8982

しばぞのクリニック

内科　循環器内科

しばぞのクリニックは、川口市芝園団地内に令和５年６月に開設しました。数年間、芝園町・芝富士地域に診療所・病院はなく、空白の地域となっていた地域でもあります。当該地域に住む方々が近隣で気軽に良質な医療が受けられる環境を提供し、地域医療に貢献したいと考えています。地域のかかりつけ医として、より安心・安全・良質・平等な医療を地域の皆様に提供し、地域に愛され信頼されるクリニックを目指しています。職員一同、常に専門職能を高め研鑽し、自らの職務・使命を誠実に果たしてまいります。

院長 山火（やまび） 秀明（ひであき） 先生

	月	火	水	木	金	土	日
午前 09:00～12:00	○	○	ー	○	○	△	ー
午後 14:30～18:00	○	○	ー	○	○	ー	ー

○土曜日は13:00まで
○休診日：水曜　日曜　祝日

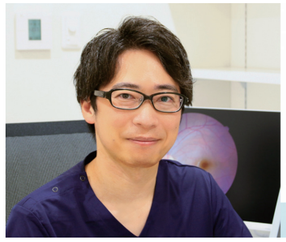
住 所：埼玉県川口市芝園町3-9-102
TEL：048-423-9547

当院では、患者さんにより良い医療を提供するため、地域の医療機関の先生方（かかりつけ医）と連携、役割分担をおこなっています。

川口たまき眼科

眼科

当院では、日帰り白内障手術、硝子体手術をはじめ、オルソケラトロジー治療やICL（眼内コンタクトレンズ）手術など、幅広い診療を行います。勤務医時代から、白内障、網膜剥離や糖尿病網膜症、網膜硝子体疾患の外科的治療に多数携わって参りました。今まで培ってきた経験を活かし、地域の皆様の目の健康のために、少しでも貢献して参りたいと思います。お子様からご年配の方まで、患者さまお一人おひとりに寄り添った丁寧な診療、ご説明に努め、信頼いただける身近な眼科クリニックを目指します。些細なことでもどうぞお気軽にご相談ください。



院長 玉置（たまき） 惣一朗（そういちろう） 先生

	月	火	水	木	金	土	日
午前 09:30～12:30	○	○	○	ー	○	○	○
午後 15:00～18:30	○	○	○	ー	○	○	○

○休診日：木曜（祝日が木曜の場合も休診）
※受付は終了時間の30分前までです
※コンタクトが初めての方は診療終了の60分前までにお越しください

住 所：埼玉県川口市栄町3-13-1
樹モールプラザ 3F
TEL：048-229-1456

新緑糖尿病内科クリニック

糖尿病科　内分泌科　一般内科

いつでも信頼してご相談いただける地域のクリニックを目指し、患者様の健康を守るための最善の医療を川口市でご提供しています。一般内科や内分泌科など一通りの診療に対応しているほか、特に糖尿病治療には力を入れています。診察を行うのは、これまで数多くの糖尿病患者さまの診療にあたってきた経験豊富な医師です。高い専門性と高い精度の治療をご提供いたします。加えて、患者様にとって負担が少ない治療のご提案を心がけており、通院がつらいものではなく気軽で快適なものと感じていただけるよう最善を尽くします。

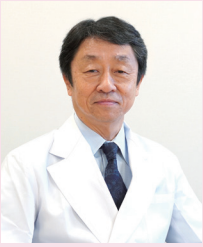
院長 佐藤（さとう） 雄紀（ゆうき） 先生

	月	火	水	木	金	土	日
午前 09:00~12:00	○	○	○	ー	○	○	ー
午後 14:00~17:30	○	○	○	ー	○	○	ー

○最終受付17:30
○休診日：木曜　日曜　祝日

住 所：埼玉県川口市栄町3-13-1
樹モールプラザ301-5
TEL：048-446-7701

院長日誌



病院長 佐藤 雅彦

2024年6月から適応された診療報酬の改訂は、国の骨太の方針にそって、社会保障関係費はその実質的な増加を、高齢化分に相当する伸びに押さえるとの方針のもとに行われました。医療機関はさまざまな必要な出費に対して、価格転嫁ができない公定価格による保険診療を行っています。昨今の物価上昇、人件費の上昇がある中では、どこの病院も経営が厳しくなるのは当然のことです。特に多くの設備投資、診療材料が必要であり、多くの人的資源を抱えざるを得ない急性期医療を行う病院では、その影響は大きなものになっています。

2024年度は救急医療に注力するとの目標を掲げ、いままでで最多の救急車応需6000台超えを達成しました。2025年度も県南地域の急性期基幹病院としての立ち位置は継続していきたいと思っています。

厳しい病院経営状況のなかではありますが、なんとか生き残って、地域の皆様に医療の提供ができる体制を継続できるよう、職員一丸となって進んでいきたいと思っています。

イベント 参加無料

EVENT

■ 小児健康教室（オンライン配信）

・「赤ちゃんの話」
配　信：2025年5月19日～6月2日（申し込み：2025年4月21日～6月2日）

【赤ちゃんの話】

・「ぜんそく」
配　信：2025年6月30日～7月14日（申し込み：2025年6月2日～7月14日）

【ぜんそく】

□ 問い合わせ：小児科 0570-08-1551（代）（平日15:00～16:30）
※事前申し込みが必要です。詳しくは当院ホームページでご確認ください。

■ 済生会健康講座

2025年6月14日（土）開催（申し込み：4月25日～5月30日）＜先着100名＞

□ 申込方法：●WEBサイト ●電話 0570-08-1551（平日9:00～16:00） ●病院窓口

お知らせ

INFORMATION

2025年4月より、消化器内科常勤医師が減員となっております。それに伴い、消化器内科の診療体制を制限させていただくことになりました。ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【公式】
済生会川口総合病院
マタニティInstagram ▶

【院外報・済生かわぐち】
バックナンバー ▶

【済生会川口総合病院】
採用情報 ▶

病院の理念

患者さんを中心とした
質の高い医療の提供により
地域・社会に貢献します

社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部
埼玉県済生会川口総合病院
〒332-8558　埼玉県川口市西川口5-11-5 ● tel 0570-08-1551（代） ● HP https://www.saiseikai.gr.jp/
済生かわぐち　第261号　2025年4月25日発行 ● 発行人：病院長　佐藤　雅彦 ● 編　集：経営企画課